

◎第22回定例会（2020）◎

10月24日（土）、日本授業UD学会沖縄支部の第22回定例会が開催されました。今回も、コロナ禍にあり感染防止の観点から、zoomによる開催となりました。しかも今回は、東京に埼玉そして新潟などなど、zoomのよさが活かされ、全国から多くの先生方にご参加いただきました。

今回の定例会のテーマは、「教材に【しかけ】をする意味について考える」。幸知先生の実際の授業の流れを取り入れた授業プレゼンテーション。そして、さまざまな体育の授業の実践事例を介した小島先生の講演を題材として、【しかけ】のより効果的な使い方や、【しかけ】を通して子どもたちに深めさせたい学びについて話が盛りありました。



○幸知 佑太先生○

授業プレゼンテーション

国語：説明文「じどう車くらべ」

幸知先生による授業プレゼンテーションでは、「自動車の仕事とつくりのつながり」を子どもたちに捉えさせるためには、どの【しかけ】が有効かということで、2つの授業案を提案していました。「置き換える」「隠す」「仮定する」という【しかけ】を用いた授業と、「隠す」「仮定する」という【しかけ】を用いた授業。自動車の動画などで内容理解も図りながら、楽しくわかりやすい授業が展開されていました。

意見交流会では、どの【しかけ】が論理をおさえるのに有効だったかについて、そしてこの授業における「深い学び」について話が盛り上がっていました。

○小島 哲夫先生○

講演「体育授業における教材化の視点」

小島先生は、「体育授業のユニバーサルデザイン」とは、「身体能力や発達障害の有無にかかわらず、すべての子どもが、楽しく『わかる・できる』ことを目指して、工夫、配慮する、通常学校における授業デザイン」とし、そのための授業づくりの3本柱として「焦点化」「視覚化」「共有化」について説明していました。そして、「子どもに身につけさせたい力」「教材の特性」「子どもの実態（つまずき）」を踏まえた上で、教材を焦点化・教材化することの大切さについて、実践事例を踏まえながら話していました。

意見交流会では、教材化し授業実践する上でのポイントや思考・判断・評点についての評価方法について、意見が交流されていました。

体育授業の

ユニバーサルデザインとは

○授業づくりの「工夫」とは

- ◇シンプルで明快な教材（教材の教材化・焦点化）
- ◇シンプルで明確な指示（言葉かけ）
- ◇視覚化すること（イメージの共有）
（聴覚情報から視覚情報へ）
（自分で成果を確かめられる）
- ◇仲間と共有する（表現する・確かめる）
- ◇自己肯定感を高める（行動・言葉への価値付け）

